

ご挨拶

学校健康教育栄養士協議会会長 岡本美千子

日頃より、北海道栄養士会 学校健康教育栄養士協議会の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。今年度も「この会に入ってよかった」と思っていただけのような研修会を企画したり、日本栄養士会のおすすめの研修をご紹介したりしながら、精一杯取り組んでまいります。



さて、私たちの日常には、ChatGPT や Gemini をはじめとする AI がすっかり入り込んできました。私自身も、仕事を手伝ってもらったり、プライベートで相談に乗ってもらったりと、毎日のように助けられており、今ではなくてはならない存在になっています。

そんな中、先日あるコラムを読んで、その内容にとっても共感しました。それは、「AI には素晴らしい頭脳はあるけれど、体はない」ということです。人間と AI の違いは、私たちには「体」という実体があり、感情をもって生きていること。そして、私たちは AI の頭脳を活用することはできても、自分の心身の健康を維持することは、自分自身しかできないということです。だからこそ、これからの時代は、健康であることや、人としてのあり方が、今まで以上に重視されるというものでした。

健康は、「栄養」「休養」「運動」の三つの要素で成り立っています。そして、私たち栄養士・管理栄養士は、「栄養」の力で人々を健康に、幸せにすることができる専門職です。さらに、その基礎資格をもつ栄養教諭は、子どもたちの発達段階や実態に応じた食育を、効果的かつ楽しく行えるだけでなく、健康課題を抱える児童生徒への個別相談にも関わることができる、学校の中で唯一無二の存在です。改めて、これからの時代にも必要とされ続ける貴重な職業なのだ気づき、嬉しくなりました。特に、これからの学校現場では、一人ひとりの子どもに寄り添った支援がますます求められるからこそ、私たちの専門性は今後さらに重要になっていくのではないかと感じています。

一方で、個別的な相談指導については、「どこから手をつけたらよいかわからない」と感じている方も多いのではないのでしょうか。日本栄養士会には、個別的な相談指導に関する研修が数多くあります。しかもオンデマンド研修も充実しています。まずはそうした研修を活用しながらスキルを身につけ、栄養指導のできる栄養教諭と一緒に目指していきましょう。

皆様が、自分の仕事に誇りを持ち、楽しく働くことができるよう、私たちの会が少しでもそのお手伝いをできれば幸いです。今年度も、どうぞよろしく願いいたします。

ご報告

【2025 年度 日本栄養士会学校健康教育職域 管理栄養士・栄養士育成のための全国リーダー研修会】

2026 年 1 月 18 日（日）に web にて開催され、北海道からは協議会長・岡本が参加しました。2025 年度の事業報告、そして 2026 年度の事業計画案が提案されました。北海道栄養士会でも、この事業計画案に沿って今年度の基本方針・事業を推進していきます。下記の議事報告をご覧ください。また、研

修会の後半には「栄養の力で児童生徒を幸せにするために～栄養教諭配置を促進するための方策を考える～」と題した講演がありました。内容を抜粋したものと解説を掲載しますので、ご覧になってください。

議事報告 2026年度 学校健康教育事業計画（案）

■ 私たちのあるべき姿（方向性）

『児童生徒の生涯にわたる健康・命・幸せに貢献できる栄養教諭を目指す』

■ 2つの基本方針

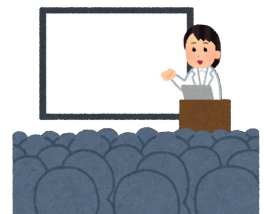
No	基本方針	背景・目的
1	栄養教諭の配置促進に向けた対策の強化を推進する	<p>学校・幼稚園における幼児・児童・生徒の健全な発育と発達には栄養教諭による専門的な栄養指導・相談、食生活支援が必要であり、栄養教諭の必置が義務化されることを目指す。</p> <p>そのため、現状の栄養教諭の都道府県・市町村の配置格差を無くすために、各都道府県リーダーと協働し、その実態を把握し、配置につながる促進要因について検討する。</p> <p>また、栄養教諭が配置されたことによる効果的な事例収集を行い、配置されていないことが幼児・児童・生徒にとっての教育格差につながることを見える化して、周知を図る。</p>
2	子どもたちが効果のある個別的な相談指導を受けられるための人材育成の充実を図る	<p>個別的な相談指導を行うためには、専門的な知識とスキルが必要となる。</p> <p>そのためには、自ら必要とするスキルを認識し、常にその資質向上に向けた研鑽を行うことができる生涯教育の積極的な活用を推進する。</p> <p>また、人材育成事業部と協働し、幼児・児童・生徒への個別的な相談指導に求められる新たな見解を踏まえ、人材育成プログラムについて検討する。</p>

講演報告

「栄養の力で児童生徒を幸せにするために

～栄養教諭配置を促進するための方策を考える～」

講師：（公社）日本栄養士会学校健康教育職域担当理事 中田智子氏



1. 栄養教諭に期待される役割（職責）

栄養教諭の役割（職責）として、学童思春期における将来にわたる健康な身体づくりを支える栄養管理、やせ・肥満、食物アレルギー等の健康課題を有する児童生徒への個別的な栄養相談、医療機関等と連携した、医療的ケアを要する児童生徒への栄養・食生活支援が挙げられました。

▶ 栄養教諭は「給食管理」だけでなく「教育と健康をつなぐ専門職」

2. 制度創設時の理念と現実の乖離

栄養教諭制度の理念は、十分に達成できていない現状が示されました。

- ・ 都道府県ごとの栄養教諭配置率は約 6.6%~97.6%と大きな格差がある
- ・ 採用・任用・配置・役割の位置づけに関する制度的課題がある
- ・ 児童生徒への食に関する指導や個別的栄養相談に十分注力できない学校が少なくない

▶ **理念と現場の間に「構造的なギャップ」が存在する**

3. 「地域差」が生み出しているもの

子どもは、生活する地域を選ぶことができません。他律的な理由により、栄養教諭から食に関する指導を受けられない子どもたちが多数存在し、栄養教諭の配置状況によって、受けられる教育・支援に差が生じています。

▶ **日本栄養士会としてこの状況を極めて重大な課題として捉えている**

4. 法制度上の位置づけと限界

栄養教諭の法的根拠と現実について、以下の点が示されました。

- ・ 学校教育法第 37 条：「置くことができる」職員（必置ではない）
- ・ 学校給食法第 10 条：栄養教諭は必要な措置を講ずることとされている
- ・ 文部科学省答申：配置は設置者の判断に委ねられている

▶ **20 年経過しても「努力と工夫」に依存した体制**

5. 調査から見える「配置の差」の影響

日本栄養士会調査（2024 年）から：

- ・ 栄養教諭の配置率：6.6%~100%
- ・ 本務校と兼務校での食育実施状況に大きな差
- ・ 食に関する指導・個別相談が十分できない要因：給食管理業務の多さ・食物アレルギー対応・兼務負担・管理職の理解

▶ **8 割以上が「やりたくてもできない」と感じている**

〈ここに注目！ 北海道の配置率〉

講演資料に文部科学省「学校基本調査」（政令指定都市含む）のデータが掲載されていました。公立義務教育諸学校における栄養教諭及び学校栄養職員の配置数に占める栄養教諭の割合（過去 5 年間の推移）の中から、北海道の数値を抜き出してみると次のとおりです。

年度	R2	R3	R4	R5	R6	5 年間の伸び
北海道	85.9%	88.8%	88.9%	89.7%	92.1%	+6.1pt
全国平均	58.6%	59.4%	60.3%	61.1%	62%	+3.4pt

（出典：文部科学省「学校基本調査」政令指定都市含む・単位：％）

全国平均が 62%の中、北海道は 92.1%と全国でもかなり上位に位置する高い配置率です。5 年間で +6.1 ポイントと着実に上昇しており、北海道における栄養教諭配置は数値のうえでは非常に進んでいることがわかります。

6. 配置は「コスト」ではなく「投資」

栄養教諭配置がもたらす価値として以下が示されました。

- ・ 望ましい食習慣を身につける力の育成
- ・ QOL 向上・健康寿命延伸の基盤づくり
- ・ 医療費負担の軽減
- ・ 教職員・家庭・地域との連携強化

▶ **栄養教諭配置は子どもへの投資であり、社会への投資**

7. 日本栄養士会学校健康教育として

地域間格差の是正に向けて、以下の取り組みを進めていくとされました。

- ・ 都道府県を対象とした状況改善
- ・ 栄養教諭配置促進に向けた強力な支援
- ・ 適正配置を見据えた制度・体制の見直し

▶ **現場の声を政策提言につなげていく段階**

◆ 協議会長から一言 ◆

北海道は、全国平均を大きく上回る配置率を維持してきた地域であり、この点はとても誇らしいことです。

しかし、道内の現場を見渡すと、学校栄養職員がいないために給食管理と食に関する指導の両方を一人で担わざるを得ない栄養教諭が多くキャパオーバーという実態があります。このことから「**配置率が高ければよい**」というわけでもないということも、今回の調査や講演、そして自分の実感として改めて見えてきた課題です。

配置が進んだ先にある「栄養教諭が本来の役割に専念できる環境づくり」まで視野に入れて、北海道としての声を上げていきたいと考えています。

お知らせ

1. 2026 年度 日本栄養士会生涯教育研修のご案内（学校のみなさまにおすすめ）

● 日本栄養士会の生涯教育とは？

管理栄養士・栄養士として、社会や医療の変化に対応できるように、働きながら学び続けるための仕組みです。「専門性を深める」「最新の知識を得る」「他職種から信頼される専門職になる」ことを目的に日本栄養士会がサポートしています。

● どうやって受講するの？

日本栄養士会のホームページ『研修会』のサイトから受講申し込みをします。オンライン研修・対面研修・オンデマンド配信など、形式はさまざまです。

日本栄養士会では、2026 年度の生涯教育研修一覧を公開しています。

(<https://www.dietitian.or.jp/news/information/2026/573.html>)

● いっぱいある！どれを受けたいの？

以下に、学校現場のみなさまに特におすすめの研修をピックアップしてご紹介します。いずれもオンデマンド形式で、ご自身のペースで受講できます。基本研修については会員は無料です。

【基本研修】 ～栄養士・管理栄養士として共通の知識やスキル～

研修名	特にこんな方に	ポイント
4. 栄養ケアプロセス (各論：学校編)	個別指導を始めたい方・ スキルを整理したい方	学校現場に特化した事例で栄養 ケアプロセスの流れを学べる。 個別指導の基礎固めに最適。
6. リスクマネジメント (食物アレルギーに関する基礎知識)	アレルギー対応の知識を 改めて確認したい方	基礎知識から対応の実際まで。 新年度の確認にも。

【実務研修】 (学校向け講座) ～日々の実践に 専門性を深めたい方へ～

講座名	受講形式	レベル	受付状況
発育期における成長曲線の活用と子どもの栄養管理 ～『子どもの栄養食事指導・支援プログラム』の使い 方～	オンデマンド	★	受付中
発達障害のある子どもの偏食改善に向けたアプローチ 方法	オンデマンド	★	受付中
成長ステージで変わる栄養問題へのアプローチ ～幼 児期の偏食から思春期の摂食行動障害まで～	オンデマンド	★	受付中

▶ 詳細・申込はこちら：<https://www.dietitian.or.jp/news/information/2026/573.html>

日本栄養士会会員は無料または割引で受講できる講座が多くあります。ログインすればいつでも何度でも受講可能です。この機会にぜひご活用ください。

★ 受講システムが新しくなりました！

2026年4月から、研修受講は新しい研修管理システム「**manaable (マナブル)**」に移行しました。各研修の受講申込は manaable サイトから行います。初回は利用登録が必要ですので、ログイン方法や登録手順については日本栄養士会ホームページのご案内をご確認ください。

2. 北海道栄養士会学校健康教育栄養士協議会 夏期研修会について

今年度は夏期休業中に、楽しくおいしく有意義な研修会を開催します。

前半は、北海道の食をテーマに「**北海道産ポーク**」をクローズアップします。北海道の養豚は生産規

模こそ全国トップクラスでありながら、九州のブランドに比べると道産ブランドとしての認知はまだ向上の余地があります。本研修を通じて、北海道畜産の現状や魅力を改めて学び、学校給食での活用や、子どもたちへの食育に活かせる内容です。

後半は情報交換会「**個別的な相談指導～こんな時どうする？座談会～**」を開催します。みんなどうやって個別指導に取り組んでいるの？」「やってみたら、こんなことで困った…」など、共有したいことはありませんか。この座談会では、個別指導に興味・関心のある方が集まり、実践や悩みを気軽に話し合います。一人職だからこそ聞いてみたいことを共有し、明日からのヒントを見つけましょう。

ぜひ皆様のご参加をお待ちしております！

日 程	2026年8月6日（木）
テ ー マ	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道産ポークから学ぶ北海道畜産の現状と食育（和食給食応援団との共催） ・個別的な相談指導～こんな時どうする？座談会～
会 場	エルプラザ（札幌市北区北8条西3丁目） TEL：011-728-1222
資 料 代	会員：1,000円 / 一般：3,000円

◆ プログラム（予定）

時 間	研修内容
12:45～13:00	受付
13:00～15:20	<p>【講演・調理実演・試食】「北海道産ポーク」を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道の養豚の現状と魅力に迫る（有識者講演） ・生産者による養豚現場と子どもたちに伝えたいこと（生産者講演） ・料理人による調理実演 ・試食（北海道産ポーク）
15:20～15:30	休 憩
15:30～17:00	<p>【情報交換会】「個別的な相談指導～こんな時どうする？座談会～」</p> <p>「みんなどうやって個別指導に取り組んでいるの？」 「やってみたら、こんなことで困った…」など、共有したいことはありませんか。個別指導に興味・関心のある方が集まり、実践や悩みを気軽に話し合います。まだ取り組んだことがない方も歓迎です。</p>



北海道栄養士会のホームページよりお申し込みください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

3. 2026年度書面総会について

6月1日から6月30日まで、北海道栄養士会ホームページに掲載されております。ご確認ください。

4. 2026・2027 年度 役員名簿

本年度より、新たな役員体制で運営してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

役 職	氏 名	所属校
協議会長	岡本 美千子	札幌市立栄西小学校
副協議会長	伊藤 智世	札幌市立明園中学校
副協議会長	須合 幸司	札幌市立みどり小学校
会 計	鳥居 希望	札幌市立屯田南小学校
幹 事	菊地 るみ子	札幌市立北都小学校
幹 事	中本 亜希	札幌市立新発寒小学校

5. 北海道栄養士会（日本栄養士会）入会のご案内

お知り合いの管理栄養士・栄養士で、まだ入会されていない方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会をお勧めください。栄養士のための職能団体として、専門性の向上と仲間とのつながりを応援します。

◆ 入会のメリット

- ・日本栄養士会雑誌「栄養日本」が毎月、機関紙「えいよう HOKKAIDO」が年 2 回届きます。
- ・北海道栄養士会主催の研修会・講習会に会員価格で参加できます（非会員の概ね 1/2～1/3）。
- ・日本栄養士会の生涯教育研修のうち 23 講演を、会員は無料で受講できます。
- ・入会と同時に「栄養士賠償責任保険」に自動加入となります。
- ・会員限定の資料・パンフレットのダウンロードや、公益法人用 Google アカウント（Google Meet 時間制限なし等）も利用可能です。
- ・栄養士同士の交流や情報交換の場が広がります。

◆ 入会資格・年会費

入会資格	北海道在住または勤務している管理栄養士・栄養士免許取得者
新入会員	合計 15,000 円（入会金 1,000 円 + 日本栄養士会会費 6,500 円 + 北海道栄養士会会費 7,500 円）
継続会員	合計 14,000 円（日本栄養士会会費 6,500 円 + 北海道栄養士会会費 7,500 円）

◆ お申込み・お問い合わせ

日本栄養士会 Web フォーム（クレジットカード払い可）、または所定の申込書をメール・FAX・郵送で事務局へお送りいただく方法があります。詳細は北海道栄養士会ホームページの「入会案内・登録変更」をご覧ください。

公益社団法人 北海道栄養士会 事務局

〒060-0061 札幌市中央区南 1 条西 5 丁目 20 郵政福祉札幌第一ビル 4 階

TEL : 011-251-7071 / FAX : 011-251-0783 / E-mail : mail@hokuei.or.jp

URL : <https://www.hokuei.or.jp/>

◆ 入会案内ページ（QRコードからもアクセスできます）

北海道栄養士会「入会案内・登録変更」ページ

<https://www.hokuei.or.jp/hotnews/detail/00000106.html>

スマートフォンで右のQRコードを読み取ると、直接ページにアクセス
できます。



イラスト：いらすとや (<https://www.irasutoya.com/>)